



## 健康と温泉フォーラム 第33回月例研究会のご案内

- 主催 NPO法人健康と温泉フォーラム 地域活性学会
- 日時 2012年12月10日(月)13:30~16:30(受付 13:00 から)
- 会場 上野・東京文化会館4F 中会議室  
東京都台東区上野公園5-45 TEL 03-3828-2111 JR 上野駅公園口出て正面すぐです。
- テーマ「健康都市構想から見た温泉地再生」  
中村佳子(東京医科歯科大学准教授(大学院医歯学総合研究科)、  
NGO 健康都市連合\*注事務局長、医学博士)

### ■ 討議内容

戦後日本の温泉地の観光地化は言い換えるなら、大きな市場を持つ都市部の企業、団体が一泊二日の交流・親睦を目的として、大型バスで乗り入れ、宴会を中心とした一種のインセンティブ旅行に対応した施設及び温泉関連サービスの形態のことである。観光地化により、温泉地はこうした利用者の利便供与に変貌し、本来その土地が持つ保養・滞在資源(空間・文化風土)を自ら放棄してしまった。こうした一連の行為は高度成長時代そしてそれに続くバブル経済の恩恵を受け、各地の温泉地の均一化と施設の大型コンクリート化への投資が進み、後のバブル崩壊後の、経営危機へと繋がっていくことになった。又、都市部に近い温泉地の住民は、地方の母都市へ働きに行き、バブル崩壊後、観光サービスを中心とした地元経済のドーナツ現象が起こった。同時に、昭和、平成と続く広域市町村合併は、地元若

手人材の確保や伝統文化の継承など温泉地に欠かせない人的、文化的資産の流出を加速させる結果となった。こうした一連の複合的現象は、地方に利便さを追求した都会の生活軸をもたらす反面、その土地の持つ、温泉地ならではの保養・健康環境をみずから見失う要因の一つにもなっていた。

大きく社会環境が変質・変遷していくなか、都市部では逆に産業中心の空間から人間生活の健康性、居住性を見直す国際的な動きが現れてきている。今回の月例研究会では、WHO(世界保健機構)が提唱している「健康都市」の概念に注目することにより、健康都市(グローバルスタンダード)という概念から投影した日本の温泉地の本来持っていた機能の見直しと再生の目標を考えるテーマとし、講師は、健康都市の原点は建物ではなく‘人’と‘行動’と説く、中村佳子事務局長をお願いいたしました。

\* )健康都市連合は、世界保健機関(WHO)が提唱する国際的な都市の連合体の組織であり、都市の居住者の健康を守り、また生活の質の向上のために取り組む複数の都市のネットワークである 2003年10月17日 - 世界保健機関(WHO)の西太平洋地域事務局(所在地フィリピンのマニラ)で各国のコーディネーター、NGO、学術団体、学会などを母体として「健康都市連合」が発足した。

■ プログラム

■ 「健康都市 \* 構想から見た温泉地再生」

中村佳子 (東京医科歯科大学准教授(大学院医歯学総合研究科)、  
NGO 健康都市連合事務局長、医学博士)

1300 受付

1330 コーディネーター・背景説明

1340 講演

1500 休憩

1515 ディスカッション

1630 終了

- 参加費 健康と温泉フォーラム・日本スパ振興協会・地域活性学会会員 2000 円  
一般の方 3000 円  
報道関係者・学生 無料

(当日会場受付で承ります)

■ お申し込み・お問い合わせ

NPO法人健康と温泉フォーラム事務局までE-mail またはFAXにてお申し込み下さい。定員先着順40名とさせていただきます。お早めにお申し込みください。

E-mail [info@onsen-forum.jp](mailto:info@onsen-forum.jp) TEL&FAX 03-6804-8575

NPO 法人健康と温泉フォーラム事務局宛

参加申込書 第33回月例会(2012年12月10日(月))に出席します。

● お名前  
(複数可)

● 団体名

● 住所

● TEL

● FAX

● E-mail

- 注 政局が流動的ですので、12月の月例研究会は初旬の10日と開催日を早めました。諸般の事情ご了承いただき、ふるってご参加いただきますようお願いいたします。当日は先日開催されました、温泉里山アカデミーのパンフのご希望者への配布も予定しています。